

ICOMC 2016に参加して



目で見る
海外論文発表

藤 居 由 基*

Joining ICOMC 2016

Key Words : heterocycles polycycles, ruthenium, one-pot reaction dyes

<参加会議名>

27th International Conference on Organometallic Chemistry 2016 (ICOMC 2016)

<開催場所>オーストラリア・メルボルン

<渡航期間> 2016/07/16 ~ 2016/07/23

<発表タイトル>

Synthesis of novel polycyclic nitrogen-containing compounds via ruthenium-catalyzed one-pot metathesis / non-metathesis reaction

7月17日~22日の6日間、オーストラリア・メルボルンで開催された国際有機金属化学討論会 2016 (ICOMC 2016) に参加した。本学会は有機金属化学をテーマとする学会の中でも最も規模の大きい学会の一つである。全体の参加者が500人を超える中、日本からも大阪大学の真島先生や東京大学の野崎先生、理化学研究所の袖岡先生を初めとする多数の研究者が参加した。

今回は私にとって2回目の国際学会発表であった。前回の海外渡航に比べ英語に対する緊張感を減らして、本国際学会に出席することができた。その結果、私は私の研究内容を海外の研究者によりスムーズに、的確に伝えることができた。また、今回の海外渡航で私は、他の研究者の口頭発表やポスター発表に対

し、積極的に質問をすることを心がけ、研究者の方からは懇切丁寧な回答を戴いただけでなく、発表時間後の深い議論に至り、普段国内の学会では耳にしない、貴重な質問・コメントを頂戴した。このように、私自身の積極的な姿勢が国際学会では重要であることを、身をもって感じる事ができた。

本学会では私の研究領域である「有機金属化学を用いた反応・合成」だけでなく、無機化学に関する講演も行われた。自身の発表だけでなく、有機金属化学の研究に精通した世界の化学者によるハイレベルな講演・発表からも学ぶことが多くあり、研究への意欲向上や視野拡大に繋がった。さらに、conference dinnerではメルボルン大学の学生と同席し、研究内容だけでなくオーストラリアの学生生活について知ることができ、海外と日本の学生生活の違いを知る機会にもなった。海外の研究との競争が激しいことも実感し、自身の研究にもさらに熱が入った。

私が本学会に参加するにあたり、貴会より経済的支援を戴きましたことに感謝申し上げます。



* Yuki FUJII

1990年1月生
北海道大学大学院 生命科学院 生命医薬化学コース 博士前期課程修了 (2015年)

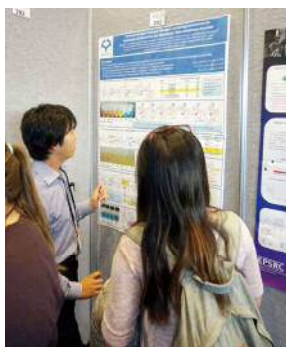
現在、大阪大学大学院薬学研究科 創成薬学専攻 分子合成化学分野 大学院生 (博士後期課程2年)、日本学術振興会特別研究員 (DC2) 修士 (薬学)

有機金属化学

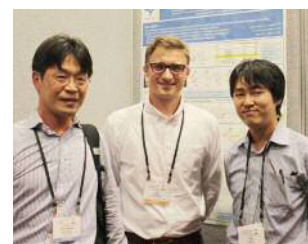
TEL : 06-6879-8227

FAX : 06-6879-8229

E-mail : fujii-yu@phs.osaka-u.ac.jp



ポスターセッションの風景



ポーランドの研究者の方と (中央)



conference dinnerの様子



conference dinnerにて、メルボルン大学の学生さんと